

節分

節分とは、季節の節目である「立春」「立夏」「立秋」「立冬」の前日のことを言います。漢字の通り季節の分け目という意味です。その中でも旧暦では春から1年が始まるとされていたので、立春の前日である春の節分が大切とされ、今では冬から春にかわる節目のことが節分であるという認識が広まったのです。立春は二十四節気の1つで二十四節気は、太陽と地球の位置関係で決まり、それは少しずつずれていきます。つまり、立春の日も実は年によって変わる可能性があるのです、節分も2月3日で固定ということもありません。

恵方巻

恵方巻は、その年の縁起の良い方角「恵方」を向いて巻寿司を丸かぶりすると願い事が叶い福を招くとされる食べ物です。元々は関西地方で広まった風習ですが、その由来は実は定かではなく、いくつか説があります。有力な説の1つが、「大正時代から戦後にかけて、大阪の花街で節分に行われていた行事を起源とするものです。当時、花街では商売人らが芸子たちと一緒に座敷遊びをするときに、商売繁盛を願って巻寿司を食べていたそうです。名前も恵方巻と言わずに丸かぶり寿司や太巻き寿司などと言われていたといいます。その後、1980年代後半に大手コンビニチェーンが恵方巻という名前をつけて大々的にPRしたところ全国に広まったとされています。ちなみに、恵方巻は福を逃がさないように無言で食べるのが正式な食べ方です。



2024年の恵方は**東北東**

この恵方、どうやって決まっているか知っていますか？

恵方とは、その年の幸運を司る神様「歳徳神(としとくじん)」がいる場所(方角)を指します。歳徳神のいる場所は年によって変わります。実は恵方には、東北東、西南西、南南東、北北西の基本的に4つしかありません。それに、十干(じっかん)と呼ばれる暦を表示されるのに用いられる十二支のようなものを組み合わせて恵方の方角を決めるのです。

恵方巻の正しい食べ方

その1: 恵方巻は丸かぶりする！

食べやすいようにと、大きな恵方巻をカットすることもあると思いますが、ルールに則ればそでは間違いです。切らずにそのまま丸かぶりするのが本来の食べ方。元々、商売人たちが縁起をかついで食べていたものなので丸かぶりして食べることで1年の幸福や商売繁盛の運を一気にいただく、という意味合いがあるようです。

その2: 恵方巻は黙って食べる！

恵方巻は1本を食べきるまで会話をしてはいけません。会話をするので運が逃げると思われているから黙って今年1年の願い事を考えながら食べると良いとされています。

その3: その年の恵方に向かって食べる！

上述したように、恵方巻は恵方を向いて食べることでその年の福を呼び込むとされています。